

私が住む地域に何が必要なのか？

インフラ整備、都会のような商業施設や遊技場などの誘致・建設等、ハード面での便利さを追求し続けるべきなのか。日本人の持ち味である共助の精神が薄れ、人と人との繋がり希薄さから、子どもを地域で守れる環境が少なくなっている。ソフト面の強化と考えてみた時、核家族化が進み家庭それぞれの暮らし方が多様化している中、一つの考え方を地域住民に広めていく難しさはある。他にも大小はあるが地域において様々な課題があげられている。ただ、この地域に住む私たち一人ひとりが「地域生活」を不自由と感じているのだろうか。地域課題をどこまで地域住民自身の問題となっているのだろうか。

「ほどよく田舎」というキャッチコピーをつけた行政機関がある。確かにこの地域は、山々に囲まれ自然豊かで、田畑が広がるのどかな場所が多い。しかし、そこから車で数十分という遠さを感じさせない場所に商店街やスーパー、大型ショッピングセンター、新幹線駅、高速道路 I C と便利と感じることのできる施設がある。田舎なのにそれほど田舎を感じさせない地域であることは間違いない。住み良さは最高であると自信を持って言える。

改めて「私が住む地域に何が必要なのか」と問われた時、一般社団法人上田青年会議所はどのような答えを持っていなければならないかと考えてみた。やはり青年会議所の理念である「明るい豊かな社会」「明るい豊かな上田地域広域を築き上げる」と答えなければならない。これは青年会議所会員である限り誰もが心に持つべき理念である。

日本の大きな課題の一つに人口減少があります。少子化が顕著に現れ、田舎と呼ばれる地域から若者が都市部へ移住し、高齢化が進み、2040年には多くの地方自治体が消滅してしまう可能性があるとも言われています。経済にとっても大きな問題であり、人が減ると言うことは「消費が減る」「労働力が減る」「税収が減る」など人だけを考えると減るものしかありません。日本が様々な面で縮小していきます。国でもこの問題に対し多くの施策を実施していますが、すぐに成果が上がるものではありません。この窮地を乗り切る為に、今以上の施策を打ち出していく必要があります。こんな時代だからこそ地域住民によるまちづくりが注目され、近年多くのまちづくり団体や自治会、大学や高校など行政主体ではなく地域住民主体によるまちづくり討論会やまちづくり活動が広く開催されるようになりました。地域課題に目を向け「自分の地域は自分の手で作る」と意識変化が生まれてきていることが言えます。

我々一般社団法人上田青年会議所は、活動圏域である上田市・東御市・坂城町・長和町・青木村においてどの団体より早く「まちづくり」を行ってきました。まちづくりの先駆者として地域の先頭に立ってきました。しかし、近年は「青年会議所しかない時代」から「青年会議所もある時代」へと地域住民の意識変化があり我々の運動が広がりにくくなっていると感じます。認承されてから半世紀が過ぎ、次の 50 年に向けスタートをきっている今、

青年会議所の存在を地域住民により知らしめていかなければなりません。今一度地域の先頭に立ちに明るい豊かな社会の創造の為に、設立から 60 年間脈々と受け継がれてきた伝統・歴史を持ち、青年経済人・地域のリーダーとして地域課題に果敢に挑み、未来を的確に捉え、熱い想いを胸にまちづくり運動を行っていきます。

未来ビジョン達成へ向け

一般社団法人上田青年会議所は 60 年間の歴史の中で、多くの提言が打ち出されてきました。特に認承周年時には中長期的な未来ビジョンや活動指針が打ち出されています。歴代理事長を始め多くの先輩方は、青年経済人として地域の未来を鋭い目で捉え地域が発展していく為のビジョンを行政や地域住民に発信してきました。現在も行政や地域各所において青年会議所の功績が多く残っています。

近年は認承 50 周年に 10 年間を見据えた上田 JC 未来ビジョン「笑顔あふれる地域へ繋げよう輝く未来へ～」が策定されました。また、一昨年の認承 55 周年では 50 周年からの中期検証時期において 60 周年に向けた活動指針が打ち出されました。我々はこの未来ビジョン達成に向け日々地域に向けた運動・活動を行ってきました。中には現在も続く「こども大学」はビジョンの柱を継続事業という形にすることが出来ました。しかし、我々が策定した未来ビジョンはまだまだ多くの事業展開を行っていかねば笑顔あふれる地域を達成することは出来ません。時代の変化は速く、7 年前の 2011 年と今では未来ビジョンにそぐわない部分も出てきているかもしれませんが、一般社団法人上田青年会議所として未来を見据えたビジョンを認承 60 周年時に全ての柱において達成できたという検証結果を出さなければならないと考えます。行政や地域住民に対し我々の考える未来予想図を今一度発信出来る為に「形」を創造し、意識変革運動を推し進めてまいります。

～子どもと大人が共に育つ～子育ての推進

夢を持ち、未来を背負って立つ子どもを育てていくにはどんな環境が必要なのか。インターネットの普及により多くの情報を瞬時に取り入れることや、SNS を通じ世界中の顔も合わせたことの無い人との繋がりを簡単に出来る時代になりました。子ども達は、このバーチャル空間において友達を作りゲームや会話を行っています。時には喧嘩やいじめもこの空間において行われています。実際の友達でさえ相手の感情が分かりにくく簡単に送ってしまう SNS で会話することが日常茶飯事となっています。一昔前の下校時に夕方遅くなるまで遊んでいる姿や、ランドセルを玄関に投げ捨て近くの公園で野球やサッカー・鬼ごっこなど大勢で遊んでいる姿はあまり見る事ができなくなってしまいました。一步学校を出てしまうとリアルな世界からバーチャルな世界へ行ける環境があり、顔を合わせたコミュニケーションを学べなくなっている原因の一つであると考えます。我々大人も便利さからインターネットの使用頻度は確実に増え、子ども達の前においてもスマートフォンやタブレット端末など操作している時間が多くなっている現状があります。親だけでな

く地域の大人たちの背中を間近で見ている子ども達は、時代の変化やネットリテラシーの欠如から環境の変化がおこったのではなく、大人達自身の変化が子どもを取り巻く環境を変化させているものではないかと考えます。

我々が提唱する「子育て」とは「子は育ち、親もまた共に育つ」と定義しています。子育てという言葉が生まれて12年が経ち、親子あるいは家族だけの言葉として使用してきましたが、地域の全ての子どもと地域の全ての大人を対象を広げ、新たな「子育て」を確立していきます。豊かな心身を育む生活環境や安全な地域環境は誰かが作ってくれるものではなく、地域住民一人ひとりが今以上に子どもに目を向け「地域で育てる」という意識を持ち続けることがよい環境に変化していくと考えます。我々は「地域で子どもを育て守る」環境を作るべく「子育て」を推進していきます。

地域ブランド発信 ～魅力あるまちへ～

一昨年、NHK大河ドラマにて真田丸が放映され上田城跡公園を中心に近隣市町村も観光客で賑わいをみせました。多くの観光客の方々は、歴史残す町並み、自然豊かな風景、栄養豊富な土地から収穫できる農産物、そして上田地域ならではの食文化など地域全てを堪能いただいていると思います。真田丸効果により地域ブランドを広く発信できています。ただ、この状況がどの位続くのでしょうか。地域に存在し根付く「ブランド」は永遠にあり続けていきますが、未来に向けてブランドをより一層多くの人に強く心に植え付ける為に「ブランド力強化」「ブランディング」を常に創造し発信していかなければ、他の地域により良いブランドが現れた時に人の心はすぐに奪い取られてしまいます。

我々は、未来ビジョンの柱の一つに「New ぶらんの創造」を掲げ、模索し続けてきました。既存の資産を今以上にブランド力を上げるべきなのか、それとも新たにブランドを創造していくべきなのか。資産が豊富にある地域だからこそ答えが出にくく、我々もなかなか答えが見つげ出すことが難しい現状にあります。しかし、上田地域が注目されている今こそ一般社団法人上田青年会議所の知恵と行動力で、地域内外の人々の心をしっかりと掴むことができ、時代の変化に耐えうることができるブランドを創造していきたいと考えます。そして、地域内外に広く発信し今の賑わいを継続し、この地域のファンを増やしていきたいと考えます。

また、一般社団法人上田青年会議所の代名詞の1つとしてあげられる「上田わっしょい」が本年47回目を迎えます。夏の風物詩でもあるこのまつりは、市民総和楽の理念のもと市民にとって故郷を感じることができ、郷土愛を育める事業だと考えます。そして、上田市にとって大きな資源でもあります。ブランド力を強化できる素材の一つとして、受け継がれてきた熱い想いを胸に、我々が先頭に立ち上田わっしょいをより一層盛り上げていきます。

学び舎としての役割を

青年会議所メンバーは会社の中心に籍を置き家族を持ちながら、自治会などの地域コミュニティ活動や各種青年団体の活動など様々な場所で活躍をされています。時間をうまく使い、どの場面においても全力で活動し、多くの場所でリーダー的立ち位置にいます。ただ、我々はまだまだ未熟者であり、今以上のスキルアップしていくために日々自己研鑽に励まなければ裸の王様になってしまいます。まちづくり活動を通じ学べる事は沢山ありますが、青年経済人・地域のリーダーとして持ち合わせなければならない知識や、自身の想いをしっかりと相手に訴える事、コミュニティにおいてリーダーとしての意見を集約できる事など青年と言われる40歳までにスキルアップしていく事も青年会議所メンバーとして必要不可欠だと考えます。一般社団法人上田青年会議所が自己成長できる学び舎としての役割を担っていきたいと考えます。

そして、学び舎としての青年会議所を地域に知らしめ、地域経済発展においても寄与していかなければならないと考えます。それには、上田地域の20歳から40歳までの青年経済人を我々の同志として迎え入れてひとつづくりを行っていくことが必要です。同じ境遇にいる者同士が切磋琢磨し「まちづくり」に「ひとつづくり」そして「自己研鑽」を行う事により、個々の能力が上がり、会社へフィードバックされる事により必然と業績が上向きになっていくはずですが、景気が上向いているものの何が起こるか分からない時代に仕事以外の活動は敬遠され、青年会議所の門をくぐらない方はいらっしゃいます。この状況を打開する為にも、現役メンバー自らがスキルアップしていることを認識し、自らがその姿を地域住民に見せしっかりと経験や体験をPRすれば、一人でも多くの同志を向かい入れる事が必ず出来るはずですが、青年会議所メンバーとしての誇りを持って、全メンバーが一丸となり会員拡大運動を推し進めていきます。

今しかできない活動・・・

本年、一般社団法人上田青年会議所は2002年以来16年ぶりに「長野ブロック大会 in 上田」を上田の地で開催いたします。長野ブロック協議会内の多くのメンバーが一同に会するこの大会は、この地域を長野県中にPRできる絶好なチャンスであります。地域の資産を体感してもらえ、この地域ならではの食文化を堪能していただけます。熱い想いを持つ各地会員会議所メンバーの皆様だからこそより大きな発信となります。また、一般社団法人上田青年会議所全メンバーが長野ブロック大会に対する高い見識を持ち、先輩方が築いていただいた上田流の最高のおもてなしをしていきたいと考えます。

青年会議所活動は毎年同じ活動はありません。単年度制で活動を行っている我々は年度が変われば一からスタートしていかなければいけないものもあります。反対に事務局に関しては毎年当たり前のことを淡々とこなしていくだけです。どちらにしても、言える事は2018年度の活動は後にも先にも今年しかないという事です。継続事業でも新たな分野でも

事務的役割でも、今年しかないからこそ各委員会が 2018 年度のカラーを出さなければ活動している意義が薄れるはずです。青年会議所運動は未来永劫変わることはありませんが、青年会議所活動は毎年変わるはずです。今しか出来ないことは、2018 年にも必ずあるはずです。他人事ではなくメンバー全員が熱い想いを持って活動すれば、みんなの胸に大きな何かを残すことの出来る年になるはずです。

最後に

私は青年会議所に入会し 16 年目を迎えました。多くのことを学び、多くの先輩・仲間と出会うことが出来ました。本気になれずに事業を終えたときには申し訳なきで胸が一杯になったこともありました。面白くないことがあれば感情を表に出しぶつかり会うこともありました。どんな時でも私の周りには、見て見ない振りをしながら気にかけてくれる先輩・仲間がいました。青年会議所のデメリットは正直に言うと沢山あるかもしれませんが、数少ないメリットの方が何十倍も大きいものであり、デメリットと思われることでさえも自己成長に繋がったと感じています。青年会議所の魅力はやったものにしか分からないという先輩方の言葉が少しだけ分かった気がします。

本年、理事長を務めさせていただくにあたりこれまで受けてきた沢山の恩を 2018 年度一般社団法人上田青年会議所に返していきたいと思います。全メンバーと全力でぶつかり、一人でも多くのメンバーに私を感じることでできた魅力を伝えていきたいと思います。

～誰よりも熱い想いを持って 全力投球～

基本事業

- ・長野ブロック大会の主管
- ・公益目的支出計画に基づいた活動の実施
- ・未来ビジョン達成に向けた事業の実施
- ・子育て推進事業の実施
- ・地域ブランドを発信していく為の事業の実施
- ・会員研修の実施
- ・メンバー一丸となった会員拡大運動の実施